

## 第18回福井大学医学部附属病院医療安全管理業務監査委員会 報告書

福井大学医学部附属病院医療安全管理監査委員会規程に基づき、監査を実施しましたので、以下のとおり報告します。

日 時：令和8年1月29日（木） 13：00～14：30

場 所：福井大学医学部附属病院 高度被ばく医療支援センター3階研修室5

委員長：高村 博之 金沢医科大学病院 医療安全部長

委 員：安川 繁博 福井県医師会 副会長

委 員：草桶 秀夫 前福井工業大学環境情報学部 教授

委 員：吉川 奈奈 杉原・きっかわ法律事務所 弁護士

### 監査項目

1. 第17回医療安全管理業務監査委員会議事録（案）の確認
2. 血液検査データのパニック値に対する対応と対処確認方法について
3. 放射線科の読影レポートの予期せぬ重大所見（SUF）に対する対応行動支援について
4. 高度被ばく医療支援センター院内ラウンド結果について
5. 第19回医療安全管理業務監査委員会議題について
6. その他

### 監査結果

1. 第17回医療安全管理業務監査委員会議事録（案）について内容の確認を行い、各委員から特に意見はなく、原案どおり承認しました。
2. 血液検査データのパニック値に対する対応については、2024年の日本医療安全調査機構の提言を踏まえた運用が行われています。電子カルテでの黄色帯表示や、臨床検査技師から病棟の看護師への電話連絡、さらに数時間後に医師が実際に指示・記載を行ったかを検査部が後追いで確認するダブルチェック体制を高く評価できます。年間約20万件の検査の中で、パニック値に起因する死亡事例がゼロである点は、この体制が機能している証左といえます。今後の課題として、医師不在時の伝達ルートの最適化や、電子カルテへの確実な記録方法の検討を継続していただくようお願いします。
3. 放射線科の読影レポートの予期せぬ重大所見（SUF）に対する対応行動支援については、2023年に結成された「報告書確認対策チーム」の活動により、未読通知回数が大幅に減少するなどの顕著な成果が出ています。特に、がんの疑いなどの重要所見に対し、医療安全管理部長が一件ずつ精査して主治医へ督促する体制は、見落としを未然に防ぐ極めて重要な砦となっています。
4. 高度被ばく医療支援センターの院内ラウンドを実施し、原子力災害への対応という重大な任務を担うための最新設備や実習エリア、ホールボディカウンター等の機器が適切に整備されていることを確認しました。また、医師や看護師、事務職員までを含めた多職種への教育・研修体制も充実しており、地域および全国の安全を支える施設として高く評価できます。

5. 次回の議題について、近年社会的な課題となっている「カスタマーハラスメント（患者からの迷惑行為）」および「内部のハラスメント対策」を取り上げ、当院の規定や現状を監査することを確認しました。また、AIを活用したインフォームドコンセント（IC）の記録化についても、進捗状況の報告を求めることとしました。

### 総括

今回はパニック値の報告体制や画像診断レポートの見落とし防止策、そして新設された高度被ばく医療支援センターの運用状況を中心に監査しましたが、特定機能病院として極めて質の高い安全管理が行われていると判断いたします。

特に、画像診断レポートの精査など、医療安全管理部長の献身的な活動により「見落としゼロ」が継続されている点は特筆すべき成果です。一方で、こうした高度な安全管理が特定の医師の個人能力に依存している（属人化している）側面も見受けられます。

今後は、DX（デジタルトランスフォーメーション）や電子カルテのCDS（臨床決定支援システム）等の機能を活用し、組織として自動的に安全を担保できる「仕組み化」をさらに進めることで、持続可能な医療安全体制を構築されることを期待します。

令和8年2月20日

福井大学医学部附属病院医療安全管理業務監査委員会

委員長：高村 博之

委員：安川 繁博

委員：草桶 秀夫

委員：吉川 奈奈